

漆と銀の装身具 ～古くて新しい日本の美～

a2200515 小池 悠太

背景・目的

日本には、長い歴史の中で育ってきた立派な日本文化がある。その中で培われてきた日本独特の美の感覚は特に素晴らしい。しかし、現代の日本は多くの物事が欧米化されてしまい、「日本の美」が失われつつある。このまま日本らしさが消え去ってしまうのはあまりにももったいない。そこで、現代の生活に合った「古くて新しい日本の美」を形にしたいと考えた。

装身具を創る理由

漆と銀の装身具を造ることに決めた理由は、

・漆と銀を効果的に見せられ、多くの人の目にとまり、美を表現できるものという条件に最も適しているのが装身具だと思ったから。

・着物等、現代使われる日本の美を感じさせるものはあるが、一般的には特別な時にしか身に着けず、現代の生活に溶け込んでいないとは思えない。現代の生活の中に自然に取り入れられる日本の美を表現したいから。

という点から。

また、銀と漆の融合は私が短大に入った最大の目的であるから。

デザインコンセプト

作品のデザインには、日本文化の中で受け継がれ洗練されてきた日本のデザインである「紋章」を主なモチーフにすることにした。紋章を組み合わせた、崩したりしてデザインに広がりをもたせた。また、若い層から高齢層まで幅広く受け入れられるようなデザインを心掛けた。

漆の表面は装飾品としては耐久性が低いので、キズがつかないように工夫した。

こだわりとして、キャスト(鋳造)は一切使わず、すべて地金から作る。

制作物

形状は短冊形(長方形)と円形の2タイプ / 短冊形8・円形3種
蝶番で開閉する銀のフレームに、漆を焼き付けて加飾したプレートを含み込む。上部にあるツメでフレームの上蓋を固定する。中に入れるプレートは数種用意し、その時の気分やファッションに合わせて入れ替えて使用できる。

制作過程

<フレーム>

- 1、銀92.5% 銅7.5%の地金を作る
- 2、叩き延ばし、板金にする
- 3、表裏フレーム、前面パーツの切り出し
- 4、ロウ付け
- 5、荒磨き
- 6、蝶番につかうパイプ、心棒作り
- 7、留め金、パチカン作り
- 8、ロウ付け
- 9、磨き
- 10、梨地仕上げ

<プレート>

- 1、銀92.5% 銅7.5%の地金を作る
- 2、叩き延ばし、板金にする
- 3、プレートの形に切り出す
- 4、漆焼き付け(弁柄漆)
- 5、下塗り・中塗り
- 6、上塗り・加飾
- 7、呂色磨き・仕上げ



短冊形 (47mm×24mm)



短冊形:上蓋を開けた状態



丸形 (43mm×33mm)



丸形:上蓋を開けた状態

考察

「銀に漆を組み合わせたかった」

それが会津短大に進学した何よりの動機だった。

漆に対して黒か赤のイメージしか無かったが、実際学んでみるとどんな表現もできるものであり、思っていたより格段美しいものだと知った。

今後も漆の装飾品としての可能性を探っていきたい。

また、世界に誇れる和の美しさの保存・再発見に少しでも貢献する為にも、国内だけでなく積極的に海外に向けて作品の発表も含めた提案をしていきたいと考えている。